

エコアクション21 環境活動レポート

2013年度（平成25年度）

（2013年4月～2014年3月）



2014年5月12日

奈良自動車工業 株式会社

●環境方針

当社は、企業理念に基づき「地球環境を守ろう」をスローガンに、環境との共生、調和を最重要課題として認識し、自ら責任を持ち全従業員あげて環境負荷の低減に配慮した活動に取り組むため以下の「環境方針」を定めます。

(1) 省資源・省エネルギー活動の推進

事業所内の整理・整頓・清潔・清掃に留意し、事業活動に於ける電力・紙・水道等の資源、石油等化石エネルギーの使用量の節減等環境負荷の低減に努めます。

(2) エコ整備・エコカー販売・スマートドライブ等による排出ガスの低減

自動車から排出される有害な排出ガスや地球温暖化の原因とされる CO2 を削減するための「環境汚染防止整備」を推進します。

低公害・低燃費車（ハイブリッドカー・プラグインハイブリッド・EV 他）の販売普及促進により間接的な CO2 削減に努めます。またスマートドライブの周知普及の推進による CO2 削減と、環境負荷への低減を推進します。

(3) リサイクル活動による省資源化の推進

省資源活動の一つとして、リサイクル品等(3R 商品)の使用を積極的に推進します。

(4) 廃棄物の削減・分別処理

事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をし、分別処理を推進します。

(5) 法の遵守と周知

環境活動を推進するに当たり、関連する法律等の遵守と、社員への周知を徹底します。

(6) エコカー普及推進活動

各種イベントに積極的に参加し、当社所有EVなどのエコカーを展示することで身近に感じてもらい、その普及に努めます。

(7) グリーン購入の推進

使用する文具・事務用品等はエコマークやグリーン商品を優先して購入します。

平成 24 年 4 月 30 日

奈良自動車工業株式会社 代表取締役 多賀政博

1、事業所の概要

④ 事業所及び代表者

奈良自動車工業株式会社 代表取締役 多賀 政博

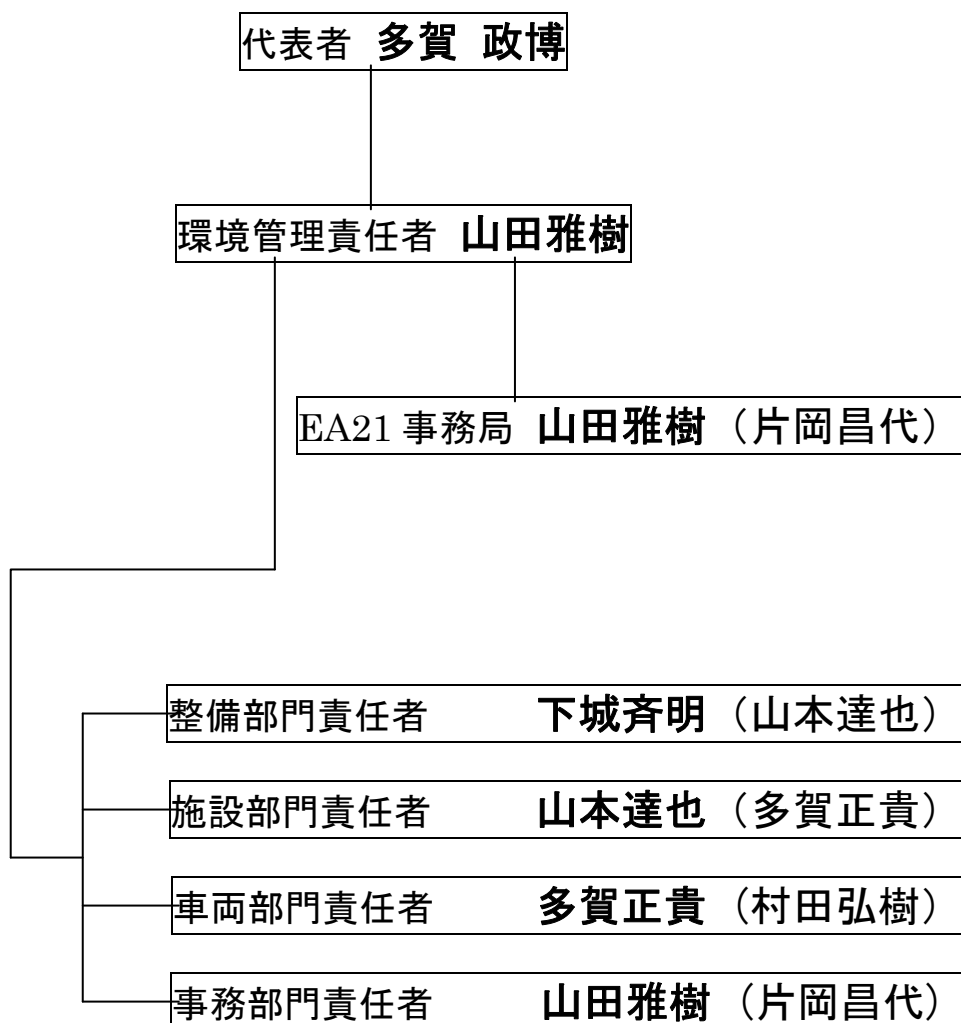
⑤ 所在地

奈良県奈良市西木辻町 92 番地の 7

3) 組織図

エコアクション21組織図

平成22年4月1日



奈良自動車工業 株式会社

- 4) 環境保全関係の責任者及び担当連絡先
 環境管理責任者 山田 雅樹
 事務局 山田 雅樹 (片岡 昌代)
 整備部門責任者 下城 斉明
 施設部門責任者 山本 達也
 車両部門責任者 多賀 正貴
 事務部門責任者 片岡 昌代
 電話 0742-22-4949 FAX 0742-26-3740
- 5) 事業の内容
 自動車整備業・販売及び損保代理店業務
- 6) 事業の規模

活動規模	単位	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
売上高	万円	12477	13680	14423	16399
整備台数	台	2576	2677	2690	2715
従業員数	人	7	7	7	7
床面積	m ²	198	198	198	198

2、環境目標とその実績

1) 目標の達成状況

当社は、以下の目標を掲げて環境活動に取り組んできた。

- ① 二酸化炭素排出量は、平成 24 年度から平成 25 年度までで平成 23 年度実績の 1%削減する。24 年度で 0.5%、25 年度で 1%減を目標。

項目	単位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	25 年度目標比
CO2 排出量	kg-CO2	21946	21144	20802	(目標値)21726
削減率	%		3.7	5.2	4.3
売上高当り	kg/百万	160	147	127	—
削減率	%		8.1	20.6	—
購入電力 ※	kg-CO2	8328	8425	8869	—
電力使用量	kWh	22031	22290	23463	21811
削減率	%		▲1.2	▲6.5	▲7.6
化石燃料(灯油含む)	kg-CO2	13616	12716	11931	—
燃料使用量	リットル	5742	5329	4957	5685
削減率	%		7.2	13.6	12.8

※電力のCO₂換算係数 = 0.378 kg-CO₂/kWh
 (2005 年全国平均値)

- * **CO2 排出量**は、ほとんどの項目での目標が達成できている。この調子でなんとか来年度も達成したい。
- * **使用電力量**は、夜間の 200V のブレーカー切りの徹底や、事務所の電子機器のこまめな節電は続けているが、電気自動車のフル稼働と、個人作業灯を電池から充電式に変更した影響で若干増加したと考えられる。
- * **化石燃料**は、レンタカー客へお客様での給油をお願いし当社精算料金を値上げするなどの工夫が功を奏し、削減目標を達成できている。

② 産業廃棄物は、平成 24 年度から平成 25 年度までで平成 23 年度実績の 1%削減する。

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	25 年度目標比
廃棄物排出量	kg	15932	15547	12745	(目標値)15773
削減率	%		2.4	20.0	19.2
売上高当たり	kg/百万	116.4	107.8	77.7	—
削減率	%		7.4	32.2	—
廃棄物(※抜粋)	kg	2348	1823	1484	2325
削減率	%		22.4	36.8	36.2

※集計表より、鉄・ガラ・廃プラ・O/E・ゴム・布（フロンガス・汚泥除く）

* 産業廃棄物は現在目標を大幅に達成できた。

③ 平成 25 年度を目標年次として、紙使用量はロット単位なので前年同量、水使用量は 1%減、グリーン製品購入品目 10%増加を目標とする。

項 目	単 位	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	25 年度目標比
紙使用量	kg	138	138	138	(目標値)138
削減率	%		0	0	0
水使用量	m ³	376	346	375	372
削減率	%		8.7	0.1	▲0.1
グリーン購入品目	個	35	40	41	39
施策		コピー用紙・名刺の再生紙使用、省電力タイプの複合機へ代替、低燃費車両の導入			

- * **紙使用量**は、ふた月に一度のペースでまとめ買いしており、年間の使用量は一定してきた。これを増加なく続けたい。
- * **水使用量**は、水漏れによる使用量の増加がないかチェックを継続し、引き続き削減に努める。

* **グリーン購入**は、事務用品だけに留まらずあらゆる方面で検討し、着実に取扱品目数を増やしている。

④ 公的資格者の増員

項 目	単 位	23 年度	24 年度	25 年度
危険物取扱者（乙4類）	目標累積人数	3名	3名	3名
合格者	累積人数	2名	2名	2名
環境社会検定（e c o検定）	目標累積人数	2名	2名	2名
合格者	累積人数	1名	1名	1名

* 残念ながら25年度の目標達成はできなかったが、今後既取得者による社内勉強会などを開催し、次回目標年度中には資格取得者増員を果たしたい。

⑤ 分析・評価

平成 25 年度の二酸化炭素排出量について、計画通りの省エネに取り組んだ結果、売上高当たりで 20.6%の削減に成功。レンタカー業務も順調にお客様を増やしている中で、夏の猛暑と冬の電気カーペット使用などにより購入電力が 6.5%増加となったが、レンタカー使用燃料のお客様での給油のお願いを徹底し 12.4%の大幅削減を達成できた。

産業廃棄物についても、20.0%の削減に成功。ほとんどの種目で再生利用に回しており引取業者の有償買取化も引き続き進めている。さらに本年度よりウエスをリサイクル業者に委託開始し、布の廃棄を削減できた。

水使用量は、予定通りに節水を励行、在庫台数増加に伴う洗車の増加にもかかわらず、23年度比で 0.1%の削減を達成。

紙使用量は、保険申込書の改訂に伴う印刷枚数が倍増しているなかで、ペーパーレス契約を推進し削減に繋げてきたが、そろそろ成熟してきた感がある。今後は増加しないように現状維持を目指す。

その他については、今後も継続して目標の達成に向け努力してゆく。

2) 平成 25 年度以降の目標

二酸化炭素排出量（電力・化石燃料使用量）、産業廃棄物については、平成 26 年度より前掲の表の平成 25 年度実績を基準として後 2 年間で 1%削減を目標にする（電力の CO2 排出係数に関しては次年度より 2013 年基準の 0.522kg-CO2/kWh に変更する。目標基準となる実績値においても換算）。

紙使用量は 25 年度実績維持、水使用量は対 25 年度 1%の削減を目指す。

グリーン購入も 26 年度において一層の推進する。また、環境保全のため公的資格者の増員も図る。

項 目	単 位	平成 25 年実績	平成 26 年目標	平成 27 年目標
CO2 排出量	kg-CO2	24181	24060	23939
目標削減率	%		0.5%削減	1.0%削減
電力使用量	kWh	23463	23346	23228
目標削減率	%		0.5%削減	1.0%削減
化石燃料使用量	リットル	4957	4932	4907
目標削減率	%		0.5%削減	1.0%削減
廃棄物排出量	kg	12745	12681	12617
目標削減率	%		0.5%削減	1.0%削減
廃棄物(抜粋)	kg	1484	1477	1469
目標削減率	%		0.5%削減	1.0%削減
紙使用量	kg	138	138	138
目標削減率	%		現状維持	現状維持
水使用量	m ³	375	373	371
目標削減率	%		0.5%削減	1.0%削減
グリーン購入	個	41	42	43
目標取扱品目数	%		2%増加	5%増加

3) 環境目標の責任体制

平成 26 年度より、E A21 責任者 山田 雅樹
E A21 事務局 片岡 昌代

3、主要な環境活動計画の内容

1) 数値目標を達成するための取組

①二酸化炭素排出量（省エネに対する取組）

- 社用車の効率的な運転（スマートドライブ）の推進＝冊子の配布
- 社用車の定期的整備（エコ整備・エコ商品装着）による燃料効率向上
- 低公害・低燃費車両の使用励行（ハイブリッド車や電気自動車）
- 作業効率の見直しと減灯・時間短縮による消費電力の削減
- 昼休みの照明（減灯）及びパソコンは極力待機電力にする
- 休憩室の電気カーペットの設定温度を上げすぎない
- 室内温度は、夏は28度±1度、冬は20度±1度とする
- 各車両毎の燃料使用量を把握し、ユーザーの使用分負担の徹底
- 応接室の人不在時の電灯及び空調オフの徹底
- 工場の夜間ブレーカーカット
- レンタカーのお客様給油のお願いの徹底

②紙使用量の削減（現状維持）

- 両面・縮小コピー、裏紙使用の推進
- ミスした裏紙をメモ用紙として使用
- 書類の電子化の推進
- 任意保険申込書のペーパーレス化推進、電子計上に切換え

③水使用量削減

- 展示車・代車洗車時、工場清掃時の更なる工夫
- トイレ等の水量を最小にする
- こまめに節水する
- シャワー室使用時の節水、水圧の減圧
- 水漏れ等が起こっていないか、毎月末にメーターチェック。

④一般廃棄物削減

- 紙類の分別回収による再資源化
- 缶(アルミ・スチール)・ビン・ペットボトルの再資源化

⑤産業廃棄物削減

- 金属類の分別回収による再資源化
- 廃棄タイヤを販売会社へ引き取らせる（再資源化）
- 廃バッテリーのリサイクル業者への引渡しの推進
- 廃プラスチックのリサイクル
- 交換サイクルの長いエコオイルの販売推奨により、廃油の削減と共に廃油の再資源化
- リサイクルウエス使用の励行

2) その他の取組

①グリーン購入の取組

- 名刺の再生紙化
- コピー紙や自社の印刷物の再生紙利用
- エコマーク文房具の購入拡大
- ヤシ油原料の現場用手洗い石鹼使用
- リユースバッテリーの積極購入
- エコオイル（低燃費型エンジンオイル）の使用比率拡大
- エコタイヤの販売促進
- 省エネ型デジタル複合機（導入済み）の継続使用

②地域・社会貢献活動の推進、その他

- 環境コスト削減活動の推進
- 環境に配慮した作業方法の提案活動
- 自社に関する環境関連法律の整備
- 環境関連の催しに積極的に参加、EVなどの展示・販売
- EVバイクの購入・販売を見据えた当社実用テスト、評価



4、環境活動の取組結果の評価、及び次年度の取組

取り組み 12 年目にして、頭打ちの感は否めないが、以下の項目については今後も工夫が必要と判断する。

1) 電力使用量の削減

- ① 作業の効率化による、残業時間削減の実践を継続し、閉店時の電源や待機電力についても研究・改善する。
- ② 事務所内はお客様の要望が強く、実施し難いが、ファンの効能と加湿器の併せ技で、温度計による管理。
- ③ 休憩室電気カーペットの最低限使用、温度管理

2) 水使用量の削減

- ① 洗車時、工場清掃時の更なる工夫が必要。水道メーター監視。

3) 産業廃棄物削減

- ① 現回収業者の適正処理確認と合わせて、可能であればリサイクル業者への移行、再選定も必要。

4) その他

- ① 電気自動車を始め低公害低燃費車両の販売・普及活動、独自のイベントを実施する。環境イベント参加などの活動を積極的に展開。自社HPなどに掲載、呼びかけを行う。
- ② 国土交通省の環境優良事業場表彰の継続的受賞を目指す。
- ③ 清掃活動から近隣住民との交流対話を進め、環境保全改善の提案活動。
- ④ 全社員が、居住地域の活動に積極的に参加・支援する。

5、環境関連法規への違反、訴訟等の有無

今年度は環境関連法規の違反、行政からの指導はなし。

各方面からの訴訟等もなし。

これらのほか、大気汚染物質、水質汚濁物質、騒音、振動等については、関係法令による規制を遵守する。

各関連法規の遵守状況も確認し、問題なし。

適用となる主な環境関連法規

法規制の名称、その他の要求事項	判定基準	適・否
廃棄物処理法	マニフェストの管理状況	適
自動車リサイクル法	マニフェストの管理状況	適
フロン回収・破壊法	マニフェストの管理状況	適
水質汚濁防止法	漏洩の有無	適
消防法	廃油および廃タイヤの管理	適

6、代表者による全体評価と見直しの結果

ここ数年間、水・紙・電気を基本に削減努力をしており、これ以上飛躍的な成果は望めないのではと考えるが、毎日毎日の意識を醸成し積み重ねで僅かでも削減成果を出すことが重要。

低燃費車両の販売、HV・PHEV・EV、さらには FCV も本年より発売されるので、今後はこれらの車両への対応も含め環境対応先進企業を目指したい。

本年は、近隣住民にも認知してもらえるように、月一回の清掃を実施するなど、企画してはどうか。